

お茶の水女子大学での留学生活

お茶の水女子大学への留学が始まってから、あっという間に四ヶ月が経ちました。初めは慣れない一人暮らしや東京での生活に戸惑い、入寮一日目にして八月へのカウントダウンを始めていました。しかし、今振り返ると、その頃の自分が信じられないほど、楽しく充実した留学生活を送ることができたと胸を張って言えます。

そんな生活が変わり始めたのは、授業が始まってからでした。興味深い授業に出席し、優しいクラスメイトたちと出会い、サークル活動にも参加する。その一つ一つの経験が少しずつ日々を彩り、気づけば早く帰りたいと思っていた気持ちは、もっとこの生活が続いてほしいという思いへと変わっていました。

授業では、日本近現代文学やコミュニケーション心理学、多文化共生、日本語の語彙についてなど、幅広い分野を学びました。文化や社会を新たな視点から捉える面白さや、日本語という言語の奥深さ、多文化社会が抱える課題について考える機会を得られたことは、国際学と英文学を専攻する私にとって大きな学びとなりました。また、これらの学びは知識を深めるだけでなく、自分自身の価値観や人生観を見つめ直し、成長するきっかけにもなりました。

また、この四ヶ月間はサークル活動にも積極的に取り組みました。剣道部では、初心者ながら部員の皆さんに基本から丁寧にご指導いただき、多くの技を身につけることができました。オリエンテーリングでは、普段からランニングに取り組むことで体力も向上し、大会では自分でも満足のいく結果を残すことができました。そして、国際交流サークルでは、お茶大生やさまざまな国から来た留学生と交流し、かけがえのない友人たちと出会うことができました。

授業も、サークル活動も、友人との時間も、どれも楽しいだけでなく、私に多くの学びと忘れられない思い出を与えてくれました。この四ヶ月間をこれほど素晴らしく充実したものにしてくださった皆さんには、感謝してもしきれません。改めて、指導教員の石井先生、国際課の市原先生、チューターの光莉さん、履修した授業の担当教員の先生方、剣道部・TEA(国際交流サークル)・東大OLK(オリエンテーリング)の皆さん、そして私と仲良くしてくれた友人の皆さん、本当にありがとうございました。この留学で得た学びや出会いを大切に、今後の学生生活や人生に生かしていきたいと思います。

